

教育長会見質疑応答要旨

令和8年9月18日（金） 於）教育委員会室

教育長発表

◎第36回埼玉県産業教育フェアの開催について

教育長：本日は「第36回 埼玉県産業教育フェアの開催について」御紹介します。スタッフジャンパーを着て、説明させていただきます。

スライドの「1 目的」を御覧ください。産業教育フェアは、専門高校等の生徒による学習成果の発表等を通じて、生徒の創造性や課題解決能力等の向上を図ること、そして、小・中学生、保護者、さらには地域の皆様など広く県民の皆様に、産業教育の魅力と役割について御紹介いたしまして、御理解を深めていただくことを目的として開催しているものです。今回が36回目となる、このフェアには、県内の農業、工業、商業、家庭、看護、情報、福祉を学ぶ生徒が参加し、専門高校等の祭典として実施しております。

「2 開催日・会場」を御覧ください。今年は、10月24日、10月31日、11月14日の3日間、県内東西南北の4地区で開催を予定しています。昨年度から、県内4地区に会場を設定し、県民の皆様に地元の専門高校等の魅力をより身近に感じていただけるように努めているところです。イオンリテール株式会社様、三井不動産商業マネジメント株式会社様に、御協力いただいております。多くの買い物客で賑わう大規模商業施設で、より多くの皆様に産業教育の魅力と役割を知っていただく機会となることを期待しております。入場は無料です。

続いて、各会場の参加校の一覧です。御覧のとおり、今年度は、北部地区10校、西部地区8校、南部地区9校、東部地区7校、合計34校の県立専門高校等が参加しております。各会場では、写真にあるように、体験型のイベントや、生徒の学習の成果を生かして企画・生産した物品等の販売もごさいます。

次に、このフェアの企画・広報に携わっている生徒実行委員会について、紹介させていただきます。生徒たちも、こちらのスタッフジャンパーを当日着るようです。生徒実行委員会は、各地区参加校の代表93名の生徒で構成されています。この生徒たちが中心となって、イベントの企画立案や広報活動を行っています。今年のスローガンは、「彩先端（さいせんたん）輝く彩の国 ～ 創造しよう 未来のジブン・未来のシゴト～」です。こ

のスローガンは、生徒実行委員会で話し合っただけで決められたもので、農業・工業・商業・家庭・看護・情報・福祉と、これらの学びは、それぞれ特色があり彩りが豊かであるということと、今、生徒たちが学んでいる専門的な知識や最先端の技術は、未来の職業人として羽ばたくための学びであるという一人ひとりの前向きな気持ちが込められているものです。

フェア開催に向けては、生徒が作成したPRポスターの配布をはじめ、県主催のイベントでのPR活動、大宮駅東口前の大型ビジョンでのPR動画の放映など、様々な広報活動も展開してまいります。フェア当日は、体験型イベント以外にも、生徒が中心となって専門高校クイズやスタンプラリーなども行い、小・中学生や保護者の皆様など、様々な方に楽しんでいただけるように工夫しているということです。

続いて、フェアの内容について御紹介します。大きく分けて体験型イベントと学習成果物の販売がありますが、まずは体験型イベントについて御説明します。専門高校では、地域の企業等と連携した実習や、地域課題の解決を目指した活動など、実践的な学習に取り組んでおります。本日は、南部地区で出展予定のAIアシスタントロボット「temi」も展示させていただきました。生徒がプログラミングして動かします。その他、卓上カレンダーや、段ボールトイレをつくってみようなど、様々な体験が用意されております。この体験型イベントでは、生徒の日々の学習成果を生かした様々なイベントを多数用意しています。

次のスライドですが、県立三郷工業技術高校による「7色に光るコースターの製作体験」ということで、本日実際に御用意しました。スイッチが3つありまして、スイッチごとに色が変わります。このコースターに載せると、飲み物にも光が反射するということで、3つスイッチがありますが組み合わせで色が変わります。この部品は、生徒が3Dプリンタで作成したものや、はんだ付けした電子回路など、電気実習の授業を応用した内容となっております。専門高校での学びの内容などを、体験イベントを通じて感じていただきたいと思います。

続いて、学習成果物の販売について御紹介します。各会場では、農業高校の生徒が試行錯誤を重ねて、丁寧に育てた農産物や、商業高校等の生徒が考案し、企業と連携して開発した商品等の販売もあります。資料に記載したもの以外にも地元の地域振興イベントで好評を得た商品や農産物を多数販売するということです。

一例を御紹介いたします。大宮商業高校では、生徒が地元の和菓子店と連携して商品開発に取り組んだ「みそぽてとチュイール」を販売するということです。「チュイール」とは、フランス語で「瓦」を意味し、小麦粉やバター、砂糖、卵白などを混ぜて、薄く焼いたクッキーのことです。この焼き菓子と、学食でも販売されている人気メニュー「秩父地域のB級グル

「メ ー みそポテト」を合体させてはどうか、という高校生らしい発想で、オリジナル商品が誕生したとのことです。開発に当たっては、お店と打ち合わせしながら企画し、試食や評価・改善を繰り返しながら、パッケージも生徒が原案を作成して、商品化に至りました。商品開発は、商業科の学びの集大成ともいえるものだと思います。

これら4会場の開催とは別に、今回のフェアの一部として、大学や専門高校等を会場として、各種コンテストも実施しています。また、Web上でも生徒の実践発表や地域と連携した取組など生徒の学びの様子を発信しております。

最後になりますが、県民の皆様には、ぜひ産業教育フェアにお越しいただき、高校生の熱意を感じるとともに、日頃の努力や学習の成果を御覧いただければと思います。また、小中学生の皆様には、専門高校など各学校の魅力も十分に感じていただき、進路選択の参考にいただければ幸いです。今年の産業教育フェアが、専門高校教育の魅力をより多くの方に知っていただくとともに、生徒たちの新たな可能性を拓く機会となることを、心から願っております。なお、本日は、皆様の机上に生徒が企業の方と連携し開発した狭山工業高校の狭紅茶と岩槻商業高校の和菓子をご用意いたしました。ぜひお楽しみいただければと思います。また、産業教育フェアで展示予定の生徒の作品や、日頃の学習の成果物も今回たくさん展示させていただきました。後ほど、ぜひ御覧ください。

専門高校学習成果物 展示一覧

No.	学校名	展示物
1	熊谷工業高校	レーザー加工作品・自作ゲーム機
2	熊谷農業高校	農産物・事故帽子（防止）キーホルダー
3	鴻巣女子高校	ファッションショー衣装・衣服・子ども用おもちゃ
4	秩父農工科学高校	秩農ルージュ（ワイン）・第3のみつ・ロゼット
5	春日部工業高校	木の小物入れ
6	越谷総合技術高校	コースター・貯金箱・ファッションデザイン・レーザー加工作品
7	三郷工業技術高校	7色に光るコースター
8	川越工業高校	中学生向け体験授業サンプル
9	川越総合高校	蘭玉
10	狭山工業高校	3Dプリンタ作品・狭紅茶
11	狭山緑陽高校	リーディングトラッカー
12	新座総合技術高校	ファッションショードレス・スチロールカー・デザインEVバイク等
13	いずみ高校	レーザー加工オリジナルグラス
14	岩槻商業高校	ひなどら焼き・ドールカステラ
15	大宮商業高校	みそポテトチュール
16	大宮科学技術高校	生徒がプログラミングしたAIアシスタントロボット（temi）

※展示物は、生徒の成果物の一例です。

産業教育フェア当日に展示・販売するものとは異なるものもあります。

N H K：入場無料ということで本当に多くの方の来場があればと思うところですが、先ほどお見せいただいた、例えば7色に光るコースターなど、制作実習に参加する場合は料金がかかるのでしょうか。

また、参加される生徒にとって晴れ舞台になると思いますが、その生徒への呼びかけや、来場者への呼びかけについてもう少しお聞かせください。

教育長：基本、体験も無料となっておりますので、ぜひ多くの方に御参加いただきたいと思います。数に限りがありますので、時間帯によっては体験終了となってしまう場合もあるかもしれません。まず高校生ですけれども今回の産業教育フェアに向けて多くの生徒たちが、特に実行委員を中心に準備を重ねてまいりましたので、ぜひ今までの学習の成果や取組の成果を十分に発揮できるように当日頑張っていたきたいと思います。

そして小中学生に対してですが、このチラシを今後学校に配布します。高校生がどんな学習をしているのか、どんなふうに活躍しているのか、どんなふうに取り組んでいるのかをぜひ目で見て、そしていろいろなものを手に取っていただいて、感じていただいて、進路選択の一つにしてほしいと考えています。

幹事社質問

N H K：令和8年熊本地震の発生から1か月余りとなりました。全国から駆けつけた様々な支援部隊が被災地で活動するなか、埼玉県教育委員会からは教職員でつくる学校支援チーム「D-EST 埼玉」が現地へ派遣されました。この学校支援チームの派遣は関東地方からは初めてということで、先進的な取組だと思います。被災地の教育現場での活動を経て、現場で課題だと感じた点があれば伺えますでしょうか。またその課題への対策や、県として参考にできると感じた取組などがあれば、伺えますでしょうか。

教育長：このたびの災害でお亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。本県の災害時学校支援チーム D-EST 埼玉ですが、令和7年10月に設置し、令和8年9月1日現在、67名がチーム員として登録しています。今回、チーム設置後初めて派遣したのですが、8月26日（水）から8月28日（金）の3日間、夏休み期間中でしたが熊本県美里町（みさとまち）の小中学校にチーム員3名を派遣しました。

チーム員が派遣先に到着した際、学校施設に一部損傷がありましたが、

学校再開を妨げるようなものではなく、ライフラインも復旧している状況でした。その一方で、自宅や関係者が被災されている教職員もあり、被災地では皆さんが復興に向けて大変な御苦勞をされていたと、派遣したチーム員から聞いています。

そのような状況では課題と呼ぶことが適切かどうかはありますが、教育現場である学校を再開する上で重要なことは、被災をしている子供たちを支える教職員の支援も重要であると、改めて感じたところです。本県チーム員は派遣先の教職員に対して、学校再開に向けた基礎知識として、ストレスに関する講義やペアワークなどによるリラクセーションを実施し、授業準備や授業への心構えを整えるための研修を行いました。

また、派遣先の学校では、教職員それぞれの被災状況が様々であるため、同じ職場の教職員同士が悩みを打ち明けづらい状況があったと聞いています。お互いのことを思うと、余計に自分のつらさを話しにくいという状況もあったのではないかと思います。そのような中で、校長先生から研修後に個別面談の依頼があり、第三者であるチーム員が面談をさせていただいたとのことでした。丁寧に話を聞くことにより、教職員のストレスを軽減させることができたのではないかと思います。

こうしたチーム員による支援と並行して、派遣先の学校では、校長先生も教職員の被災状況などをしっかりと把握しながら、その状況に応じてサポートをしている様子があったと伺っております。今回の派遣を通して、支援チームの活動が被災地の学校にとって効果的な支援であり、支援チームの体制をさらに充実させることの重要性を改めて認識したところです。

その他質問

N H K：インフルエンザの流行について、学校閉鎖が一部で出たところもあったと思います。例年よりかなり早い流行ということで、教育長として懸念されている点や、学校での感染対策など、呼びかけされていることがあれば教えてください。

教育長：今回、早い時期ではありましたが、学校閉鎖の報告をさせていただきました。全国でも随分早いスピードで感染が広まっているようです。ぜひ基本的な感染対策、手洗いやうがい、換気などを各学校でしっかりと行ってほしいということで、これまでも通知し、呼びかけているところです。また、児童生徒への学習機会の確保についても、各学校でしっかり対応してほしいということも伝えております。